

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 富山市立中央小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒930-0052
富山市五番町4番35号

E-mail toyama-chuo-es@tym.ed.jp

Website <http://www.tym.ed.jp/sc105/>

児童生徒数 男子 208名 女子 181名 合計 389名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について

1年生

秋の公園へ行き、生き物を採集したり、木の葉や木の実を拾い集めたりするなどの活動を通して、季節の変化を感じることができた。

また、拾い集めた木の実を利用したおもちゃ等を作って友達と遊んだり、幼稚園や保育所の年長児を招待し、こまやけん玉等の遊びを一緒に行ったりして、身近な人と交流する楽しさを味わい、自分の成長に気付くことができた。

2年生

地域にある店や公園、図書館や児童館等の公共の施設を探検し、自分たちは、いろいろなものと関わり、多くの人に支えられて生活していることに気付くことができた。町の人に取材することで、そこで働く人々の思いやその施設の役割や工夫についても学ぶことができた。また、小さい頃のことを調べたり、がんばってできるようになったことを振り返ったりすることで、支えてくれた人に感謝し、こらからも頑張ろうという意欲をもつことができた。

3年生

校区に出掛け、自分たちの校区のくらしを支えているものを見付け、交通や市の施設等について調べた。市の取組に興味をもった子供たちに、市役所の方から、環境や高齢者に配慮したまちづくりを目指して公共交通の整備を行っていることを教えてもらい、子供たちは、市は市民の幸せを願って取組を進めていることが分かった。その後、どうすればさらに住みよい市になるのか一人一人が考え、提案書を作成した。学習を通して、子供たちは、身近な暮らしを支えている人やものに興味をもち、自分も市民の一人であり、自分にできることをしていこうという参画意識をもつようになった。

4年生

富山の水と自分たちとのつながりを考え、自分の課題をもって追究した。湧き水を生かして生活する校区の人々と触れ合ったり、校区に流れる川の歴史や守り伝える活動について調べたりすることで、豊かな自然の恵みである水の貴重さを実感し、使うだけでなく守ることの必要性を感じることができた。また、3Rスクールに参加したり、エコ活動を実際に行ったりする体験活動をすることで、限りある資源や豊かな自然を守るために、自分たちで継続してできるエコ活動を考え、取り組むことができるようになった。

5年生

校区にある老人福祉施設を訪問し、「ホットハートプロジェクト」というテーマのもと、お年寄りと交流した。最初は、初めて出会うお年寄りとの交流に戸惑っていた子供たちだったが、交流を重ねるうちに、お年寄りの得意なこと（将棋、あやとり、折り紙等）を知って一緒に遊んだり、目や耳が不自由なお年寄りに合わせて活動を工夫したりするなど、相手に合わせた活動へ

と変化していった。お年寄りとの交流を通して、相手を理解し自分にできることを考えることの大切さを実感した。お年寄りだけでなく、友達、下級生、家族、地域の人々にも「ホットハートプロジェクト」を広げようと考えている。

6年生

校区の歴史や現在の様子を調べ、未来に向けて自分たちの校区をどのような町にしていきたいかを考えた。校区の歴史、文化、商店等について自分で課題を選び調べ学習を進めた。特に校区を襲った富山大空襲について、昨年の夏に出版された絵本に書かれていることを基に考え、当時の人々の悲しみや復興に向けた苦労を知った。さらに、この絵本を基に劇の台本を作って学習発表会で発表し、劇を通して自分たちが感じたことや未来への決意を校区の人たちに伝えた。劇の発表の前には、内容をより深く知るために絵本の作者に当時の様子を聴く機会を設けた。その後、校区（富山）をどのような町にしていきたいかをそれぞれが考え、中央っ子フェスティバルで発表した。

中央っ子フェスティバル

1年生から6年生まで、生活科や総合的な学習の時間に取り組んできたことを縦割り班で異学年の子供たちに聴いてもらう活動発表会を行った。発表するときは、聴いている人に分かりやすく伝えること、聴いている人は話し手の伝えたいことを受け止めながら聴くことを目当てとした。各自の発表後には、質問や感想を交流する場も設けた。子供たちは、活動発表会で、新しいことを知った喜びや、友達の新しい一面を見つけた楽しさを感じることができた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）